



夢相心兵衛胡蝶物語前編

五

^ 13
3658
5



門 へ 13
號 3658
卷 5

夢想兵衛胡蝶物語卷之五

東都

曲亭馬琴戯編



貪婪國

貪婪國は魚あり。その名を饒と云ふ。饒の大態。幾万八千の紙をたらしむ。化して鳥と云ふ。その名を鶡と云ふ。鶡の態面厚き。幾千枚をたらしむ。飛と云ふ。その名を垂延の鶡と云ふ。その鳥や開運と云ふ。則ち酔醒に至る人。酔醒ハ強飲の山あり。吾輩三千界。皆上を搏して貪る。九万鷹。食小六月と云ふ。限と云ふ。野夫や甚六や。文盲の息をたらし。相吹く。天の蒼と云ふ。それ天竺邪。その遠く。至る極る所。人邪。下る。人。木山の如し。と樂屋へ落ると。荘子の故事附。逍遙遊よめ。ねども。女。勇氣のたのめ。ので。彼大鳥。栖きて。人生。をたらし。む。さ。り。も。

夢見の天竺巻之五

夢想兵衛の酔醒山の母とて。貪婪園の大悪を。恪鷲は掃去の也。
 勢小とせし、小人島の同行小する火の道を。つらさくとも。云を霞と
 飛ぶ程よ。その怖さ苦しさ。夢人へさすもなり。紙老時ふきて、困りを直し
 就まひよと。たるゆりて。その由命の力。いと受えぬ。今さふ異
 園へひくう。様されば。後て。深屋の太郎との由さ。最情といひて
 気のらふ山中左。由らふは。寔に三寸息絶さば。萬の体と。旅魂今
 夜誰が家小。流らんとおぼそく。哀なる。おし。経よ各。鷲ハ。夢想兵衛
 と。絶す。海上三千餘里。経を只一伸小。飛ら。貪婪園の各。番。郎。守。銭
 城との都の。辰と。翔る。阿太次。計。梨の木。の股へ。さうさうと。うら。あ。せ
 ば。夢想兵衛の。息絶。て。あ。か。生死の。あ。う。ご。う。り。あ。う。れ。ご。う。の。悪。を。物。惜
 る。戒。る。癖。の。ま。は。ま。格。別。は。後。も。滅。ら。ぬ。よ。あ。あ。る。物。と。は。さ。く。と。さ。う。て

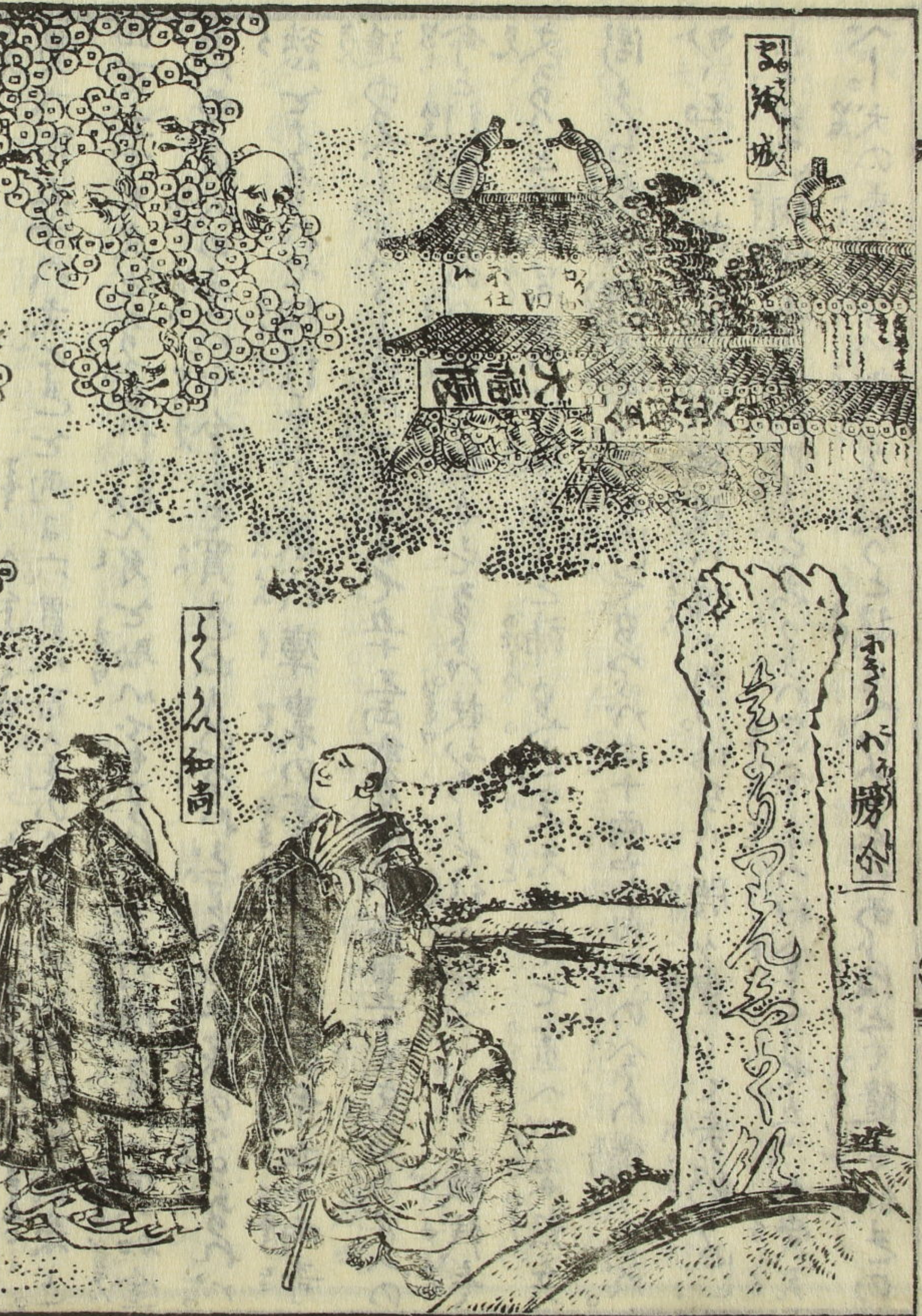
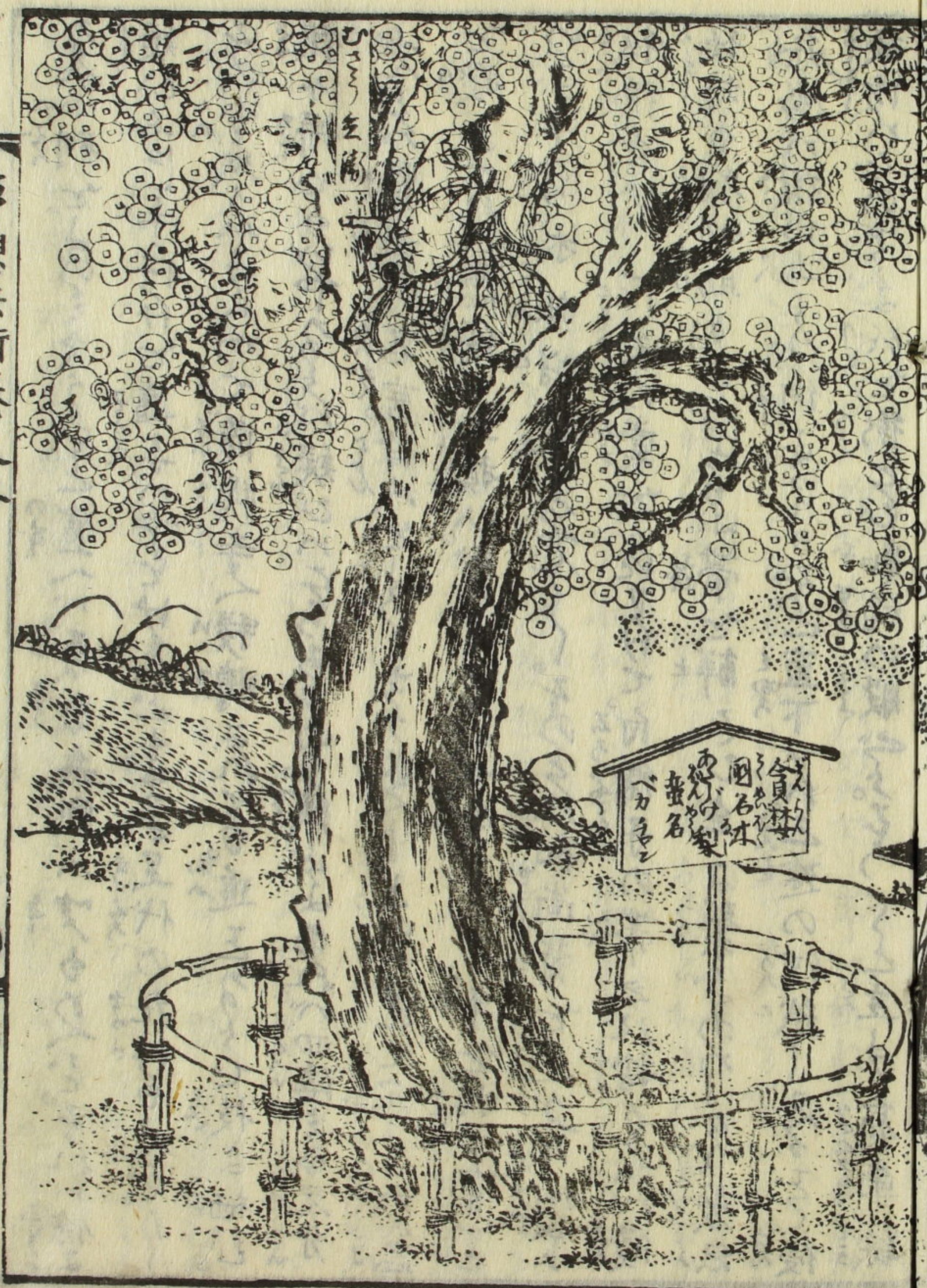
あまのハ。情。の。り。の。こ。是。ハ。の。ま。う。あ。ま。う。て。あ。う。の。と。い。ふ。が。嘴。を。も。つ。け。び。て。亦
 揮。不。ち。と。飛。去。ぬ。さ。ら。う。び。く。と。夢想兵衛ハ。半。响。の。ま。う。あ。う。て。息。吹。也。
 こ。の。ハ。い。ま。ど。死。び。ら。り。の。と。う。れ。し。ゆ。と。飲。び。る。が。高。き。栴。葉。を。お。け。バ。木
 佛。ひ。び。り。ん。す。う。も。る。く。十。方。ふ。ま。を。お。し。ゆ。の。れ。弘。長。寺。の。慈。海。和。尚。そ。ん
 寺。の。紋。子。の。袈。紗。被。く。香。深。の。法。衣。殊。勝。げ。射。利。ぬ。と。い。ふ。草。履
 取。侵。欲。と。い。ふ。子。坊。を。供。つ。ま。木。の。下。ら。う。過。り。多。か。ば。夢想兵衛ハ
 こ。ま。と。と。見。く。地。獄。で。仏。と。大。き。小。飲。び。掌。と。う。れ。声。を。揚。喃。々。聖。ま。の。の。ち
 見え。日。本。國。の。旅。人。よ。夢想兵衛。と。い。ふ。の。の。か。不。圖。く。と。て。か。年
 園。を。欲。園。と。編。登。し。近。属。強。飲。園。は。拵。か。け。り。か。天。狗。や。熊。鷹。や。怖
 うれ。大。を。ふ。さ。う。の。ま。て。あ。の。知。く。は。あ。れ。進。退。究。て。難。儀。至。極。之。の。れ。慈
 眼。視。衆。生。の。肯。せ。う。一。技。あ。ら。は。し。び。も。と。春。と。撮。て。憑。ひ。す。也。欲。海。和。尚

目録

稍と入のげて。さくそれハ気の毒千万。残ふはるるまのど。人ぞ救ハ
 ハ出家の後る。冥加残の多少より。相誇よふべし。拙僧甚途
 といふ。直を限之。と態なり。て宣へ。及忠兵衛。呆果。とも
 こそ。貪婪といふ。國ハ。や。人。木の端。竹の。これの
 かり。の。出家。人の難。と。僕。や。け。技。口。上。憎。も
 あり。と。多。も。狼。貪。子。悲。の。國。風。る。俗。人。の。母。心。ひ。や。る。の。和。尚。を
 ぞ。逃。し。後。ふ。勸。解。と。も。る。げ。と。也。お。して。ま。る。人。の。の。賤。の。早。費。る
 かり。月。乾。ふ。る。より。と。也。の。は。竹。と。ふ。手。り。と。也。案。し。木。の。杪。高。く
 声。る。の。げ。宣。ふ。知。美。知。る。某。懐。中。は。路。銀。澤。山。所。持。い。と。も。は。そ。乃
 ち。よ。寄。進。と。と。と。餘。を。く。り。バ。慾。海。和。尚。を。め。て。莞。尔。と。ら。ら。笑。ま
 る。ハ。言。う。なく。錢。の。衆。生。の。度。一。が。汝。既。は。夥。の。金。の。故。入。べ。し。く。
 と。回。答。し。て。懐。の。紙。入。り。豆。筭。盤。と。取。出。し。か。ら。の。樹。の。さ。さ。か。五。六
 丈。の。あ。り。し。れ。入。御。定。代。の。枚。九。林。と。十。奉。と。見。る。の。代。限。が。八。十。同。
 こそ。の。外。か。運。送。の。車。力。を。費。貳。百。文。と。見。つ。め。て。外。ふ。の。索
 十。把。四。百。文。の。人。足。を。十。人。と。定。る。三。貫。文。を。れ。ハ。入。用。が。銀。八。十。同。
 錢。四。貫。六。百。文。さ。の。り。今日。有。徳。の。檀。方。へ。非。時。は。吸。と。茶。の
 あり。殊。と。一。周。忌。の。速。夜。の。れ。ハ。餐。煮。も。格。別。の。る。ん。と。ら。り。飲
 ち。馳。走。と。り。げ。じ。宝。の。山。ハ。足。喘。り。け。て。腹。を。空。く。と。損。毛。と。ら。と。勘。定。
 て。見。ま。ば。奉。僧。と。五。匁。と。見。て。生。後。三。入。で。十。八。成。現。蓋。も。二。面。と。見。る。ハ。奴。が
 かの。の。の。と。吸。物。が。三。味。嚼。吸。物。が。二。主。役。と。吸。物。の。致。三
 五。十五。碗。と。三。積。り。み。く。四。匁。五。分。取。着。二。洋。散。二。と。三。夜。積。り
 みる。上下。と。三。八。廿。四。匁。酒。ハ。一。挑。子。五。合。宛。み。主。役。三。人。で。十。挑。子

へ輒く切あべし。その酒五斛。一斛ありは計百八拾文あり。を貫四百十六
 文引物の菓子にき分優改三。茶慢改二。大藤雁一。花月一。一人
 ちとせとみく。三七二枚をふ。上色の粘入六枚で十八文。紅白の水引三把
 で六文。を絶ちて飲食しとて。唯回向の事と持仏へ贈ひ。宗旨の經
 文三二をく。口のうらやうるとまぐ。それと一布施が金百足。芥子の優
 慾へ銀一兩。後者の射利女へ三百文。をこを一とあめ締て見ま。根七拾
 計ぬ八かと残を貫七百四十文。まごのり。ゆる結構の檀那を鹿略
 ありて。俄頃又病氣とまごりりて。使僧をつらとよ。空子てのや
 まご。その進物が。大枚原一束。春野香との入。長線香十把。靈前へと
 書をせ。まご。その入用が。大枚原一束で十枚。春野香十把で二百八十文。
 上色の粘入水引が三十二文。摠高をめて見ま。百六十計ぬ八かと。残六

貫六百五十六文。まごを兩よ六貫八百かえの令あて。三兩部分式米と。
 四百五十七文とろる。これいあんを助いでも。それらが所得るれば。眞加金
 あいあ。人の命の千令あも買まぬりのるれど。それら出家のりるれば。
 慾とまごりて相終まご。永代庫裏の普習とく。只今五十兩奇
 進のまご。あると死の二口あめて。五十三兩式分式米と。四百五十七文あり。人の
 命と引替よ。その令残と適ととる。まご。杖おろしと。びとまご。の。鐵錢ま
 文ろり。と。不豆せ。ば。仏縁ありと。諦めと。足えと。えて。宣へ。ば。多怒兵
 鬨ら。ち。点。改。何。か。こ。を。杖。お。ろ。し。て。も。ま。ご。五。十。兩。や。百。兩。の。令。入。情。り。と。び。
 か。く。ま。ご。の。様。と。ま。ご。の。路。限。の。懐。あ。り。し。ま。ご。の。腰。が。重。く。て。ま。ご。の。し。
 と。ま。ご。の。相。終。ま。ご。の。の。り。と。ま。ご。の。只。今。手。つ。け。令。と。く。五。六。兩。受。え
 べし。犬の糞のり。あ。知。へ。ま。ご。の。と。ま。ご。の。と。ま。ご。の。と。ま。ご。の。隨。合。切。ま。ご。の。



て夜ふりて寝ると死駕賃とてき分ちがむ紙糸の受納く。尻
 ひつがげ膝栗毛でかへつと正か後またたれて由。駕賃久せといふりのあん
 や。よとてへつらぬ人出家を祈すと五百生す地獄で舌を捲きそ
 や。と威くええ。賤く。比喻方便もさういひておんて夏忠兵
 衛へ呵くとうら笑ひ是代の舟の代のと絶つれぬ和尚の舌と捲れぬ
 用心志のへい。仏の慈悲を體と。そ。慈をりて教と。妻子珍宝
 及王位臨命終時不隨者。唯戒布施不教逸者。今世後世為
 伴侶と大集經も説きさうお出家も賤を母か。何とりて桑
 門とせん些ハ恥とさうも。とげらる。又ハ慈海和尚法衣の袖と捲合せ
 さ。かハ凡夫の浅き。と。仏の方便とさ。ぬらぬ大集經は説きくは
 物とさ。檀方お布施とさ。む。善巧方便加之光明經も乃至

得聞是經。當令是等。悉得猛利不可思議大智
 惠聚不可稱量福德之報。めと説くけ。亦法華經普
 門品ハ若有女人欲求男。禮拜供養觀世音菩薩
 便生福德智慧男。設欲求女。便生端正有相女
 宿植德本。衆人愛敬。と説ひて慈く。引こむ成仏道塞
 錢を投つけとて。腹とらぬ佛ハる。仏も金を欲がりぬ。ハ黄金と
 りて。中層と。泥ちあつとさ。と志く。さ。地獄の制度も金次第十
 王が勸進も。さ。か。為とハ衆生の常言般若貳米か。残とりつて
 いら。真讀の施主ハつた。は。汝駭の結銀ありといひ。ハ偽りその
 懐ふ物も。死る。今の一。か。推量と。眞土黄泉も。奪衣婆あり
 残る。死亡者ハ。こ。と。剥る。懐搜く物も。ハ。丸む。か。後を炙ん

のと最上と。魚ハ塩物乾物を賞既とこと朔日十五日の外ハ食む。
 飯ハ黒豆を厭ひ。汁ハ薄豆飯厭ひ。朝ハ夕飯より起て竈の下
 のせきやで。夜ハ遅く寐て犬の声は耳を側て。夕と飲て。長尻の客將
 不。如意の親類へ。年始も門札を敷く。遠ざけ。長尻の客將
 梅とんと。茶漬でもといふ。勘定づく心りの女房
 一騎當千又とて。在々の怪子。田畑流まこと名蹟と定め。
 有明をおく。換る小定香盤をり。牙の膏を後り。仇の先
 小火をさ。半枚の附本を惜みて。燧を漬て草履を足せ。懇意
 づくでも。唯ハ通さ。團中の男女母の胎内あると。四十年あ
 くとめく。生む六七十と一期と。いづも志も。少くも年老
 なく。只各番を度と。利の為は煩悩をいと。後長兵衛ハ
 され。の形勢。悔さ。門より袖も。慈悲善根と
 いふ。次去る。團の手の内。す。肌疲。今ハ一歩由
 運ひ。南と。十字街。大なる家造の窓の下。在
 む。岩。阿。七。小紋の肩を。改の霜
 ハ備前陶を。伊。洗。松坂。木綿小倉の二重
 帯。曲り。古雪。ね。左。松魚。提
 て。右。小。一。薪を。中。撲。物。三十二
 文の損。と。松魚。薪の上。裁。何。と
 吟。捨。と。後。兵。眼。を。會。禁。國。も
 又。氣。ひ。の。堅。木。の。薪。を。二。把。を。生。り。松。魚。を
 捨。と。の。解。ぬ。奴。故。と。の。深。く。怪。け。

のと最上と。魚ハ塩物乾物を賞既とこと朔日十五日の外ハ食む。
 飯ハ黒豆を厭ひ。汁ハ薄豆飯厭ひ。朝ハ夕飯より起て竈の下
 のせきやで。夜ハ遅く寐て犬の声は耳を側て。夕と飲て。長尻の客將
 不。如意の親類へ。年始も門札を敷く。遠ざけ。長尻の客將
 梅とんと。茶漬でもといふ。勘定づく心りの女房
 一騎當千又とて。在々の怪子。田畑流まこと名蹟と定め。
 有明をおく。換る小定香盤をり。牙の膏を後り。仇の先
 小火をさ。半枚の附本を惜みて。燧を漬て草履を足せ。懇意
 づくでも。唯ハ通さ。團中の男女母の胎内あると。四十年あ
 くとめく。生む六七十と一期と。いづも志も。少くも年老
 なく。只各番を度と。利の為は煩悩をいと。後長兵衛ハ
 され。の形勢。悔さ。門より袖も。慈悲善根と
 いふ。次去る。團の手の内。す。肌疲。今ハ一歩由
 運ひ。南と。十字街。大なる家造の窓の下。在
 む。岩。阿。七。小紋の肩を。改の霜
 ハ備前陶を。伊。洗。松坂。木綿小倉の二重
 帯。曲り。古雪。ね。左。松魚。提
 て。右。小。一。薪を。中。撲。物。三十二
 文の損。と。松魚。薪の上。裁。何。と
 吟。捨。と。後。兵。眼。を。會。禁。國。も
 又。氣。ひ。の。堅。木。の。薪。を。二。把。を。生。り。松。魚。を
 捨。と。の。解。ぬ。奴。故。と。の。深。く。怪。け。

浩如も亦ひとり六十のまりの際垂阿蘇。天窓ハ其權と冗めやま。
 腰のわりとて洞の蔓墨より黒と杖子顔吹牛程の杖の頭へちと掛
 くる古草鞋。さうろくとく横町より出合がらふ顔見合せ。それハ葦坂
 の各平どの。さうお出と吸びうらまじのやめ。佐堀の皺右馬どの。
 頃日ハいふゆははひつ。それハあなへ出りけり。撥るくよのまきて親れた
 へ四五十金の媒い。つらつら親れどけ。又礼金もとも。慾せんもれて
 並よりも少し餘計。又受納いせ。その謝礼とて松魚一本贈り
 されて却。厄人。とて煮て惣菜。よると死ハ食せつけぬ魚類。よく
 家内の奴原飯かよま。下りの飯。又損あり。又う。身。分。て自分一
 人賞。既。志。くも。一本の松魚ハ食つ。くれど。知。へ。客。でも。あ。ると。死。ち
 ちん。さ。う。それ。と。え。せ。く。も。あ。う。ま。じ。ど。それ。も。又。二。三。合。の。酒。と。損。さ。る。と。も
 の。ぐ。一。所。詮。薪。一。把。の。損。と。く。その。松。魚。と。捨。つ。あ。ち。う。一。弊。め。た。ば
 捨。入。りの。の。醬。油。一。合。の。損。あり。あ。う。と。バ。さ。う。あ。ぐ。人。由。あ。ぶ。と。と。之。接
 ち。て。う。ぶ。ぐ。捨。よ。ま。す。と。と。バ。皺。ち。う。肩。と。聳。め。嗚。呼。ま。振
 へ。それ。程。又。大。気。る。人。と。い。あ。へ。あ。ん。い。が。う。母。ど。焼。か。す。の。と。あ。ち。う。と。頃。日。の
 相。場。ど。ハ。捨。て。も。あ。り。百。か。め。の。の。あ。ふ。う。せ。う。う。や。へ。賣。す。と。あ。ち。う。ね。い。れ。ん
 毎日。麥。飯。の。と。食。入。あ。ふ。屁。の。あ。ち。う。う。限。り。あり。それ。と。と。屁。の。い。ぢ。ら
 ち。へ。放。り。ど。気。と。り。と。え。んと。あ。い。と。た。へ。紙。袋。へ。そ。う。と。と。ほ。して。垂。て。さ。ぬ
 は。紙。あ。つ。う。と。指。り。さ。ま。と。青。菫。又。代。て。ま。常。の。風。あ。つ。う。う。う。て。彼
 袋。の。尻。と。留。へ。ら。と。せ。バ。自然。と。齒。ふる。る。道理。古。草。履。踏。切。び。て。惜。気
 ち。う。く。と。死。と。する。大。気。りの。と。い。日。と。同。く。と。繕。う。が。ど。心。算。あ。れ。さ。う。方
 へ。か。た。く。と。さ。ふ。捨。ひ。と。あ。う。る。古。草。鞋。ま。よ。う。ら。る。瓜。擇。り。け。て。残。り。の

古草鞋の巻之十

情ある主人の云はれは辞とるを多く。白竹の尻おしを推ひて死術玩より
 ありのありに。小斬二人出て客中後小誘引且くして廣蓋を衣裳一
 龍衣と載りてりて出ると見え。慾海和尚は剃とる。口が衣裳ありのけし。バ
 ちとしく教をたぐるがら。こまを被て蕨のぬへゆき。行は小斬亦給仕
 して飯を食し。中酒は吸物。散をえて。盃を勧め飯は一汁五菜ふ
 ちて。尋者の食。愈よる。魚。貝。い。ま。ご。その意を曉らば。さうふあうく
 怪しむ。物同しけし。バ飽まをうら食て。を。め。て。り。れ。り。る。ゆ。せ。り。
 そのとら主人も出で。愛。忠。兵。衛。は。對。ひ。それ。が。ん。洞。真。と。呼。び。て。こ。の。里。は。
 三世の春秋をさうらう。さうく人あも志と。し。る。ま。る。き。又。組。の。賜。ふ。て。且
 泰平の時よ生。ま。の。ひ。し。身。の。幸。福。と。ん。じ。れ。ば。生。平。は。神。仏。を。崇。め。
 秀。む。る。も。先。祖。と。兼。畧。せ。り。今。宵。は。ら。ら。さ。ん。仏。の。あ。り。て。親。戚。朋。友

と招くおるれば。仰。酒。飯。を。ま。め。り。し。う。實。は。おん。身。一。人。を。歎。括。め。り。て。
 さるふらうて。嚮。は。コ。が。苦。提。所。る。仏。長。寺。の。慾。海。和。尚。と。招。括。し。う。し。ふ。
 和尚四表八表の物。諸。く。け。ら。う。ん。ま。う。く。の。り。あ。う。ら。彼。日。本。人。と
 来る。と。あ。う。ぶ。こ。の。古。梳。籠。を。う。い。ゆ。さ。う。者。奴。か。い。ゆ。り。の。憎。け。し。は。い。ふ。
 懲。り。し。ま。し。う。首。尾。を。説。き。し。も。ひ。く。は。これ。よ。う。おん。身。か。未。厭。止。を
 志。ま。し。う。あ。う。れ。を。おん。身。の。海。曉。ら。ど。く。コ。が。團。を。い。や。め。い。く。罵。り。し。う。
 こ。を。傍。痛。け。し。夫。彩。の。髪。あ。ふ。り。の。へ。掃。の。垢。を。去。て。ま。ま。と。挿。湯。入。る。
 り。の。風。を。拾。ひ。捨。布。子。を。揮。て。ま。ま。と。被。る。こ。の。身。の。清。き。が。衣。を。抛。よ
 様。され。ど。の。為。る。う。り。おん。身。の。志。の。清。き。を。り。て。ま。ま。と。も。り。さ。ら。う。ど
 て。利。を。説。て。慾。海。和。尚。と。説。き。ま。ひ。し。こ。の。衣。は。衣。裳。と。剃。る。こ。の。い。く。ど。も。
 彼。と。争。ひ。が。れ。よ。の。い。や。和。尚。は。おん。身。を。扶。お。う。し。て。ゆ。く。べ。き。五。十。餘。金。を

どくもまきのつれこふとせむ。亦彼蚕食貪利の徒ハ糠を食ひ垢を
敵り。理系を忘きて法度を犯し。その初ハ道ヲ稱ぶ。由名ハ貪一ハ
以ども。富強いさよはまよハ。炭とあて炭團を造り。半紙の藁を貯て
銭借ハ絢。煮豆と食へバ袖口カされまよ。飯よめれせせ食ひまよ。ひ
まよの科簡ハ一生度跡ハ入るまよ。まよ亦金銭を欲とせよ。まよ
蓮ハ瓜まよ。まよ實ハ金銭を欲といハ人ハあまよ。まよ放蕩マ我の
人の物を備て返さるまよ。比まよ。雲壤のたがひあり。世ハ兄弟親友といども
その志とえれ。後ハ愛想の場ハのハ。金銭の上まよ。彼放蕩マ我の
為俸とまよ。まよ。物地ハのハ。差別する。借りまよ。返さるまよ。貸まよ。まよ
あまよ。飽まよ。飲食ハまよ。まよ。連日食ハまよ。まよ。綿繡と細と世
もまよ。一枚のまよ。まよ。事ハ缺るまよ。悔ハ恥まよ。まよ。人ハ誇るまよ。まよ。

類ハの國ハ絶てり。人恒の産るまよ。恒のまよ。業まよ。まよ。
のハ。榮業ハ意まよ。のハ。人間ハ百樂ハ財と取るまよ。のハ。のハ。のハ。
富ハ人の欲とを所貪まよ。人の情ハまよ。人貪窮するまよ。のハ。不良ハ
まよ。發とまよ。富ハ不良のまよ。發とまよ。のハ。のハ。のハ。のハ。のハ。のハ。
慾るまよ。まよ。清貧と稱と。まよ。のハ。のハ。のハ。のハ。のハ。のハ。のハ。のハ。
捨まよ。まよ。僅ハ一分を成るまよ。まよ。のハ。死後の名ハ生前の富ハまよ。神
仏の利益ハ由る。銭の利益ハまよ。まよ。のハ。君子ハ銭と兄とまよ。まよ。
まよ。孔兄と稱と。まよ。晋の魯慶ハ神銭論ハ。銭とまよ。まよ。
兄のまよ。字ハ。孔方といハ。まよ。失ハ。貪弱ハ。まよ。まよ。まよ。
富強翼るまよ。飛びまよ。走り。嚴毅之顔と鮮。難發之口と閑。
残マまよ。のハ。前ハ。後ハ。家計ハ云。苛矣。富人

おん土の御巻
とせんかいと

おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと



おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと

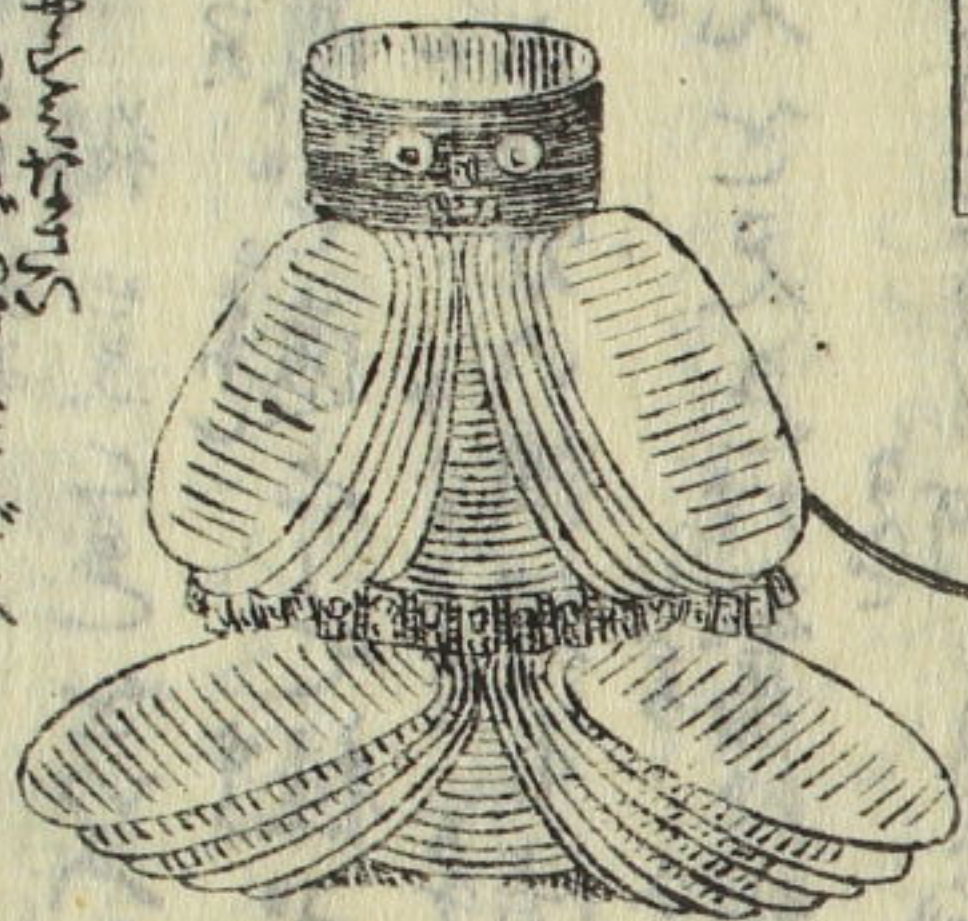


おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと

おん土の御巻
とせんかいと



おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと



おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと



おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと

おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと



おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと

おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと

おん土の御巻
とせんかいと
おん土の御巻
とせんかいと



哀此弊獨。豈とこそいひ汝残のるる泉あり。百姓日よ用ひて。
 その原價と。遠とく往るるところ。深とく至るるところ。京邑の
 夜冠も。疲勞の構肆も。清談を吹くを厭ひ。まこと對されば睡寐
 我は汝兄と見え。汝が驚れ視るるところ。されば残の結るる吉とく
 利あり。するところ。何うのくばも書を読んで。あつとくは富貴あるん
 残の定は神物あるる。位わくくそく勢ひるして。勢ひ朱門は
 排く。紫圍ふり。残のゆるる。危きも安らじ。め死するとも活らぬ。残の
 去るる。貴きも賤し。ゆるる。生るる。死も殺さる。む。あなよ念淨辯公。残
 みあつとくは勝と。孤弱幽僻も。残のあつとくは。援と。怨仇嫌恨も。
 残のあつとくは。解と。令同笑談也。残のあつとくは。發と。と。鏡より。
 残の耳をくく。汝べ。残のあつとくは。鬼も使ふ。死て人。子夏が云死

生かあり。富貴天あり。吾以るる。死生命あり。富貴残あり。何とありて。
 これを明とるる。残のく。禍を轉と。福と。敗と。固て成と。あり。危と。
 りの安く。死する。りのも生るる。を。性命の長短。相禄の貴賤
 も。残あり。天ある。そ。天も短き。亦あり。残の長き。亦あり。四時の
 行は。万物の生るる。天も。残も。天も。及ぶ。窮達。困塞。貧と。賤は。
 之を。清く。天も。残も。及ぶ。藏武仲が。智。下。莊子が。勇。冉求が。藝
 の。死。文。こと。と。り。て。人。と。る。せ。り。今。の。人。と。る。の。め。の。あ。つ。と。く。は。唯。孔。方
 の。と。き。その。大。畧。あり。残。ハ。滅。よ。き。む。ぐ。愛。と。く。事。と。く。使。ふ。へ。う
 ぞ。あ。つ。と。く。は。残。あり。の。り。を。ば。富。あり。の。の。の。を。年。と。と。これ。僻。で。且
 妬。あり。清。負。の。人。と。い。ふ。も。残。の。と。死。ハ。一。日。由。生。か。じ。世。よ。日。本。を。神
 國。と。し。天。竺。を。仏。國。と。し。唐。山。を。儒。國。と。し。日。本。神。國。あり。とい。ふ。と。皆

ちかく神もんや。天竺仏國なりといふも。仏のそんや。唐山儒國の
 こりとも。儒者のそんや。まればわが國を令其妻といふもこれよふか。一
 會其人のそのあふは只利よそそたるの他國も誘きつ。と言舌爽
 不利書と竭くと説諭せば。夢想兵燹の嘆息し。主人の實は利達の人
 富貴もその道とありて。そと死に辭さるるべし。口利あて。謀るるに死ハ
 君子ハせど孟子齊よありとい死。齊王よ兼金二百を媿まりあるを受む
 宋よありて七十溢を媿ま。二百を受む。それ百を受む。七十を受む。の
 ハ豈利の爲るんや。やがるなよ。以取べし。以取とるるべし。取ハ廉を傷る。以
 とふべし。以とるる。とふべし。とふふハ惠を傷る。亦聖人の言よ。云道二つ。
 仁と不仁とあり。夫利ハ禍のよるふ。そと死に君子ハ利と説む。命よ吉凶
 あり。事よ前後あり。求むるに至ると天福とあり。君子ハ天福と受て利
 と蓋む。至らば。清貧と成る。竟天下とあり。舜は讓む。禹は舜とあり。
 受く。季歷その國と獻む。太伯を受む。舜の受む。禹ハ天福あり。
 太伯の受む。天福已よあり。これハ。四海とありて。万金の利よ比する。此ハ
 萬金。鳩毛より軽し。まう。命。吉の人。まう。國中の命。残。万金。か。一を娶る。
 と死ハ。富ると。殘る。此の。死。亦。遂。や。わ。士。ハ。農の上よ
 務りて。賢と。め。また。また。亦。遂。や。わ。士。ハ。農の上よ
 あり。農ハ。ユの上よあり。ユハ。商の上よあり。守。殘。の。人。ハ。亦。その。下よあり。
 から。ま。君子ハ。耕。せ。む。鬻。む。名。と。重。し。と。ま。して。利。の。爲。に。行。ひ
 と。汚。す。ハ。僕。の。鄧。通。ハ。蜀。の。銅。山。を。め。つ。て。ま。つ。て。殘。を。傷。む。終。は
 道。路。よ。織。て。死。す。晋。の。石。崇。その。富。貴。世。の。耳。目。を。驚。り。せ。む。一朝。罪
 せ。れて。又。の。鑕。と。る。ぬ。り。善。を。極。む。と。殘。を。積。む。道。を。毀。す。富

孟子卷之七

十一

小徳ありと死ハ。鄧通石崇と吳ろる正なるおど。君今魯廢衰ハ。神殘論
と口實としども。元是魯廢衰ハ何のたよ。神殘論と著し。ることをいふ。
彼人實又殘をせし。利を名ハのるらんや。千室ハ搜神記ハ所禮青
蛛の子母殘のど死。九々八十一文りて。利を誘ふと。又是貪利の人と
殘るの。も。當時の小説あり。されバ世俗の常言ハ富といふ。富といふ。の
三ツと。といふ。彼利の爲ハ事と。缺亦恥と。被義理と。缺く。これを三
ツの富といふ。り。事と。欠といふ。富といふ。と。由を負く。恥と。かた。義理と
缺ハ。賤し。死の。死る。り。抑我日本國ハ。士農工商ハ。の。く。その。を。守
て。貪る。ば。を。死りて。君子國と。且天神。を。を。闕。れ。ハ。本。ハ。神道唯
一の上國也。神ハ正直の人と護る。其國の。死。ハ。貪婪の人。死。を。闕。
その利を。今。又。作。と。う。を。死りて。貪婪國といふ。彼天竺を。仏國と。唱。へ。唐山
と。儒國と。唱。ふ。と。死。ハ。あ。は。つ。と。く。其國の。人。氣。と。考。る。ハ。罪。ハ。重。く。と。賞
ハ。輕。く。利。の。乃。ハ。煩。悩。サ。ハ。た。る。奴僕。ハ。思。ふ。く。と。考。る。其。不。良。と
禦。ふ。ハ。身。の。福。と。の。希。ふ。て。世。の。人。の。憂。を。お。ひ。と。家。ハ。巨。萬。の。財。と
積。も。子。の。死。と。苦。あり。夫。天。道。ハ。盈。る。ハ。虧。貨。悖。而。入。者。ハ。亦。悖
而。出。り。窮。達。の。道。殘。ハ。あ。は。つ。竟。ハ。眞。舜。と。吠。吠。又。奉。ト。孔子。ハ。顔
回。と。賢。と。し。て。誓。べ。り。と。は。徳。ハ。奉。る。り。殘。ハ。未。る。り。本。と。外。ハ。未。と。内。ハ
正。と。死。ハ。危。し。か。る。は。は。君子。ハ。利。と。り。て。利。と。せ。と。義。と。り。て。利
と。と。し。り。曩。又。これ。殘。あり。と。法。師。の。救。ひ。と。求。ハ。生。と。令。見。り。死。と
お。そ。る。ふ。あ。は。つ。彼。ハ。難。ハ。衆。ト。其。の。利。と。あ。は。つ。思。と。は。る。亦。一。
ら。死。り。と。れ。又。利。と。り。て。彼。ハ。戲。す。の。も。彼。が。う。く。其。の。非。を。悔。ひ。恥。て
衣裳。と。返。せ。と。い。つ。で。其。怨。の。人。と。り。ん。され。バ。仁。と。り。て。人。と。救。ふ。と。死。ハ

入その思と感せむとつりて。かり利まらうて人と救ふとたへんこれを
 惠とせむと。碎雲巴人の為は稻を外のその穂とて藁とて藁とて久く孰り
 ちとて飲ふべき人の為は畔と造りてのつりて田へ水を引く正あふ孰り
 されを勞ふべき。残あるりの人の火急を救が如きも。これ又似たり。その利の為
 小なるとたへ稲と刈て藁とて畔と造りて水を涸らすと何ぞ異なるや
 んと。席とらうて洗破まらば。銅臭呵とらうち笑ひ子貢の貨殖とて
 孔子は噴らと。范蠡に至る亦多るや。富り。子貢范蠡の才ありとも。
 利を捨てて貨殖せんや。我人の火急を救へば。彼亦これ又報ふは。残を
 ちてこれを返す。り人の為は稻と外とたへ一斛の粟あつてその一斛を取
 らん少の孰りちとて飲ばざるん。人の為は畔と造りての百斛の水とち
 て一斗の水とて田へ引く孰りちとて勞はざるん。利は金残乃融通

とも。亦必去。車輪のど。貪まらうての富里よ來と。その陰と業ん
 とを希ひ富人り。貪地へ來と。その里りあるは。販へ。貧福の影と
 形のど。教へ取ふ隨て動くもの。形は影は隨て動くこと。ほ。おん
 牙の教るる。づれは取るり。言は言は隨ふべと。み。らうて吞れば。養
 兵。衛。つと。の。子貢が殖。范蠡が富のど。財を聚めてこれ
 と散らす。の。友。子貢が里ふ。貪とりの。范蠡が子貢財用
 よ。是る。この。國人の。あ。財を積ぶ。散らす。と。知。馬。接。が。所。謂
 守。残。の。虜。之。を。知。り。て。一家の。富。と。い。ふ。も。郷。黨。の。寒。く。一。刻。錢。を
 積。と。い。ふ。も。親。族。の。饑。と。い。ふ。も。由。也。と。銅。臭。忽。地。氣。を。変。て。
 汝。が。好。意。よ。う。て。利。を。と。る。衣。裳。よ。り。つ。た。を。飯。を。食。ひ。て。を
 酒。を。飲。む。腹。の。よ。れ。ち。よ。う。と。い。ふ。の。廣。言。吐。て。惑。え。ん。と。と。實。は。利。國

の髪を引つる。誰かある。者奴追ひ出せと罵る。ばうけもの。と回答
 して。大の男二三人次の間より走り出六尺棒を閃くと打つ。と競
 むれば。髪を兵衛の大さく怖く。身を跳らし走り出。足は信しく
 近う。程よその日も既よ。まぬ宿り。人由あり。されば。今宵ハ。宿と心
 定めて。森よとの。鐘と。うそふ。月と。燭と。四五十町。あつら。と。さ
 天結陰て。道いと。暗く。左手。右手の。叢より。燐火。隔と。とりえ。雨がり。
 煙の。玉。人。氣。と。と。の。中。や。と。又。久。と。は。の。世。の。人。あ。あ。と。ざ。り。け。り。
 或ハ。庫の。漢。と。り。ち。或ハ。千。兩。箱。と。引。く。え。つ。ら。令。く。せ。と。嗚。の。声。の。
 去。り。か。れ。て。り。の。凄。しく。牙。の。毛。の。よ。ぶ。と。ら。て。二。目。と。も。も。ろ。ろ。う。の。あ。ぶ。え。ね。ど。
 と。も。捨。つ。る。身。の。あ。と。が。く。つ。く。足。を。踏。あ。め。て。左。右。と。と。と。既。つ。け。は。木。ハ
 是。警。家。の。一。公。教。生。の。日。八。年。利。の。奴。と。り。て。血。の。先。へ。火。と。と。り。死。て。焼。

狼の鬼とるうて。煙の中は。故とあふ。人生まで。静まる。天の性。と。物。と
 感。と。と。動。く。性。の。怒。る。り。その。形。の。と。り。て。怒。あ。死。て。何。の。怒。り。あ。り。
 人。真。の。幽。霊。あ。り。も。あ。り。ド。狐。狸。の。爪。の。あ。り。と。本。の。故。と。あ。ふ。は。は。の。
 生。皮。剥。ん。と。罵。る。ば。怨。哭。け。く。と。う。と。う。天。の。怒。る。と。天。の。人。を。人。
 の。命。終。り。て。六。皮。肉。丁。を。朽。由。腐。由。と。れ。惜。さ。は。れ。の。怨。念。ハ。骨。と。共。ま。
 朽。る。と。は。夫。愛。惜。の。多。ハ。賢。愚。異。あ。り。子。夏。ハ。子。と。死。て。明。
 と。失。ひ。石。雄。恋。慕。く。風。を。発。せ。り。亦。日。の。本。の。惠。心。僧。都。ハ。常。不。
 西方。極。樂。の。蓮。花。基。よ。生。じ。ん。と。願。ひ。あ。ひ。く。化。の。と。火。葬。
 ころ。小。胸。膈。の中。に。蓮。花。あり。亦。唐。山。の。一。女。子。常。よ。山。水。を。愛。せ。り。が。
 死。する。後。その。胸。骨。と。え。ま。ば。山。水。の。う。き。と。刺。る。が。と。と。博。物。の。物。論。
 と。め。は。て。し。も。穿。る。と。あり。ま。ば。吾。儕。ハ。今。後。は。是。惜。し。く。な。ら。ば。狗。中。数。万。

の金浅ゆ。その怨念のちやのるよふ。雨の夜風の夕。まはつちのちのれく。
 コが合入世。とほぶぞし。凡慾ハ有用のるよふ。誘くく。と益の誘子厚き
 かの。くま人情の常とよる。亦死とる。いの合。銭は用なり。あつれども。
 くれよ。あも惜りて。亡ま。が死の。益の慾あり。これバ。世の人の。多き
 祝族を救ひ。御黨と賑。先祖の墳墓を再建。子ども。の乃よ。善
 師と擇。家の破損を修復。らん。どの。有用の。亦。る。れ。バ。合。銭と。惜
 酒。は。耽。衣。裳。又。足。と。冬。拈。山。散。水。日。と。費。媚。と。浮。屠。家
 ぶ。求。め。子。ど。も。は。絲。竹。豔。曲。と。る。ら。ん。ど。の。益。の。亦。る。る。れ。ど。
 合。銭。と。惜。ち。ど。り。の。マ。益。の。費。と。者。と。人。と。有。用。の。る。の。と。せ。ば。
 人物。世。界。は。あり。あ。ま。う。困。窮。止。と。ら。る。べ。し。その。益。の。費。は。よ。う。て。
 社。氏。妻。子。と。鶏。ふ。り。の。泰。平。の。餘。沢。あり。て。彼。が。マ。益。の。費。を。以。て。

可有。用の。用。は。死。ん。所。謂。糖。と。さ。ろ。て。水。を。落。せ。下。流。の。人。これ。を。汲。か
 如。一。彼。春。の。木。の。一。葉。数。百。花。の。も。果。ハ。十。が。二。三。よ。ふ。と。花。を。マ。益
 なる。を。よ。ま。く。果。ハ。有。用。の。る。ゆ。え。は。少。し。且。その。花。を。愛。り。て。花。を。惜
 む。かの。豈。果。を。食。入。為。る。ら。ん。や。君。それ。を。と。り。亦。各。昔。は。二。つ。あり。
 貸。さ。せ。借。せ。衣。食。を。少。れ。て。銭。を。積。む。己。を。固。く。人。と。交。り。づ。る。と。狐。陋
 と。の。借。て。返。さ。せ。衣。食。は。窮。て。瀕。と。り。己。と。う。づ。う。て。浅。と。聚。る。と。奸
 曲。と。の。ゆ。め。る。を。云。積。銭。の。家。ハ。餘。慶。あり。借。合。の。家。ハ。餘。殃。あり。
 君。今。奸。曲。と。措。て。貪。婪。を。責。む。と。死。ハ。又。の。誤。と。う。づ。て。その。子。の。不
 孝。と。ま。ふ。ら。ん。と。生理。学。と。り。て。世。情。は。情。と。ん。より。た。ま。く。祝。籠。が
 佞。と。ま。ひ。宋。朝。が。及。ぶ。は。扨。ア。と。蔭。と。此。國。は。家。の。り。の。く。富。家。の。瘦
 拘。り。立。ら。ん。バ。大。木。の。蔭。下。死。浮。世。の。雨。と。避。ん。と。草。の。原。は。つ。る

長物結ぶ。夢想兵衛ハ声と傲し。迷ふるる。怨望並ども。賢者乃
 その子を悲みて。兩眼盲負女。その夫と慕ひて。風伯とありし。工の皆
 至誠のいそぎ。争令残。又愛惜する。其夫其婦と。なすけく。楚
 書ふり。いふや。楚國あり。つて宝と。とる。とる。惟。きり。つて宝と。と。汝。ホ
 り。一善。又。い。い。と。と。も。と。万。金。も。愛。惜。せ。且。益。の。費
 と。り。つて。有。用。の。用。に。宛。る。が。た。ハ。呉。客。が。不。亀。手。の。サ。ホ。お。な。し。
 されハ財の非。ある。人。の。賢。者。あり。公。田。も。雨。ふ。と。ハ。可。が
 私。あ。り。及。し。ぐ。各。普。ハ。慾。の。害。あり。放。蕩。も。亦。慾。の。害。あり。入。と
 知。ま。と。と。夫。る。の。と。の。各。ハ。異。る。と。る。この。あ。り。世。俗。の。常。言。は。頃
 我。買。の。獺。味。嚼。汁。と。の。へ。り。あり。凡。淫。酒。と。り。と。財。と。惜。る。者
 も。その。志。ハ。名。の。へ。賤。し。邪。曲。奸。悪。ハ。論。む。る。又。は。世。は。各。普。と

儉約といふ。と。あ。り。の。あ。り。施。を。受。け。と。も。散。す。と。と。夫。る。に
 貪。て。施。と。と。あ。り。の。恥。と。あ。り。後。と。あ。り。の。利。と。あ。り。て。行。ひ。と。汚
 と。り。の。各。普。あり。衣食。と。汚。し。て。非。常。な。倣。へ。費。と。省。き。て。祝。願
 の。負。さ。り。の。と。救。ひ。聚。ま。ば。散。す。餘。り。は。施。し。恵。も。濟。ら。ば。与
 されども。怨。望。と。と。と。儉。約。と。い。ふ。貪。婪。國。あり。儉。約。の。人。あり。令。残。ハ
 國。の。宝。あり。天。且。く。見。え。貸。と。も。長。く。つ。物。も。あ。り。今。日。入。る。の
 あ。れ。が。明。日。の。つ。出。る。と。あり。その。融。通。する。人。の。呼。吸。の。ごと。く。財
 且。く。その。あ。り。と。あ。り。ハ。息。の。長。さ。あり。財。頻。と。出。く。出。く。ハ
 息。の。長。さ。と。人。の。呼。吸。ハ。晝。夜。止。と。た。り。令。残。の。融。通。亦。の。に
 何。ぞ。之。く。つ。家。の。系。田。人。な。あ。り。その。又。富。と。り。と。も。その。子。も
 負。さ。り。の。子。あり。先。祖。の。餘。徳。も。よ。り。て。子。孫。の。富。と。續。り。の。あり



とも。りまご百世^{ひやま}は芳流^{あさなが}なるりのと人^{ひと}ぞ。あつまは萬利^{まんにり}の一^{ひと}言^{こと}もまらば。
 富^{とみ}屋^やと閑^{ひら}い。徳^{とく}ハ^やと閑^{ひら}い。その損益^{そんえき}ハ利^りと名^なとのと痛^{いた}さなる汝^{なんぢ}亦^{また}。
 らの理^{こと}と曉^{さと}さむ。今^{いま}残^{のこ}は愛惜^{あいしやく}して遂^{つい}は貪鬼^{こんき}とるりぬ北條^{きたじょう}九代^{くぐだい}執^{とつ}。
 権^{けん}より一^{ひと}も泰^{やす}時^{とき}の寡慾^{くわよく}ふらる。足利^{あしり}十三代^{じゅうさんだい}武將^{ぶしょう}より一^{ひと}も孝^{こう}氏^{うぢ}の
 りのさくまあハざるゆゑ。人^{ひと}寡慾^{くわよく}あるとれハ百拙^{ひやくせつ}と補^{おぎな}ふ。富^{とみ}
 ハ天命^{てんめい}の成^{なり}たるところといひるがら。又^{また}兩將^{りやうしょう}ハ別^{わか}れ稱^{しょう}はばまらる。一^{ひと}も
 寡慾^{くわよく}なるゆゑよりのと。さうゆくと説^とルセバ怨^{おん}冥^{めい}こそとせむあ
 ぞ小賢^{せうけん}や汝^{なんぢ}利^りと捨^すて吾^{われ}ハ稱^{しょう}と。吾^{われ}のくさるハつらりのぞ。り利^り
 と捨^すて汝^{なんぢ}がむくるるべ。孰^{たしか}もそれよとまらば。只^{ただ}もら叙^{ぎよ}くを吾^{われ}まが野計^{のけい}
 不見^{みえ}と群^{むら}立て。或^{ある}ハ朽^く方^{かた}率^{そつ}却^{せつ}婆^ばと。控^{かひ}或^{ある}ハ枯木^{こぼく}の枝^{えだ}とへ。折^おるま
 兵衛^{べゑ}と打^うるま。立^た體^{たい}癱^{たい}して声^{こゑ}まらば。土^{つち}嗟^{なげ}の野^ののそあとも小^{せう}。
 消^けりやとる。とあハ朽^く方^{かた}。東^{ひがし}の方^{かた}より紫雲^{むらさきぐも}より引^ひ光明^{くわうめい}赫^{しやく}突^{とつ}として。
 四方^{しやうぱう}と照^てせば。今^{いま}中^{なかつ}を有^ある怨^{おん}冥^{めい}とも。れ消^けどく失^{うし}より。夢^{ゆめ}想^{がう}兵衛^{べゑ}ハや
 やふ。れよりうて牙^{こゝろ}を起^{おこ}す。あさハ人^{ひと}まバ奇^きなるるる。雲^{ぐも}ハ中^{なかつ}もあひひさる
 て地^ちとさるる。り六尺^{ろくせき}なる。童顔^{どうがん}仙骨^{せんこつ}長髯^{ちやうぜん}白眉^{はくめい}の翁^{おきな}忽^{たち}然^{ぜん}と雲^{ぐも}の中^{なか}ま
 立ち。ハ衆^{しゆ}兵衛^{べゑ}とて。膝^{ひざ}を屈^くめ。改^{あらた}と低^ひ神^{かみ}仙^{せん}これを救^{すく}ひ。人^{ひと}救^{すく}ひ
 ぬと叫^{こゝろ}びたり。そのとれ仙翁^{せんおきな}莞^{わん}尔^にとら。笑^{わら}と直言^{ちやくげん}の人^{ひと}ふり。怪^{あや}しと
 る。れ。れハ名利^{めいり}の徒^と又^{また}嫌^{きら}む。正^{ただ}真^まの福^{ふく}の神^{かみ}なり。近^{ちか}曾^{そう}らの地^ちへ現^{あら}
 化^けして百葉^{ひやくえつ}の童子^{どうし}よのり。う。貪^{どん}利^りの害^{がい}と示^しさるとり。ども。凡人^{ふじん}とも
 信^{まこと}仰^{あや}せむ。せむ。り。その土^{つち}をき。んとて。雲^{ぐも}は閃^{ひら}くと飛^とま。あ。が。計^{けい}
 係^{けい}と見^みとさ。小^{せう}辰^{てん}ハ。同^{どう}憂^{ゆう}を相^あ憐^{れん}む。の老^{らう}婆^ばは。あ。が。野^の計^{のけい}の補^{おぎな}
 嶋^{しま}。由^ゆ縁^{えん}あり。和^わ郎^{らう}なり。外^{ほか}のとも。あ。の。ぬ。あ。れ。が。子^こ結^{むす}でも。あ。ぬ。この

夢枕草子備巻之七

廿三

國かぬが才の及ぶぬ。諫言の耳に逆ひ良茶の口は苦し人の不吉を責
 ると死の後の患をいふせん。孟子の料敵。されば彼大賢とす。ゆがんと道
 と座ありゆれば。齊の宣王は鏡とて。宣王これをとらば。寡人貨を
 好むとす。貨よりしてを説き。をのむとす。いとわづらひをよみて鏡
 うけられど。それば迂遠いとく。あまやこそ申すも聴さる。徳平が膏を
 と夏賣る申すものと不域はささる。昔も今も人情はえんとあつとて。ふ
 おくが取方老子といふ。不吉人の言人の言とて。わづらひとす。貪婪
 國の人とて取らる。ふのふのふの。放蕩國や奸曲國は比ば。その益
 ありぬ。れども令良との甚し。けむ。奸曲國と縁と結ぶ。小利大損の患
 あり。深山は貨あり。貨よりして。道をゆるとも。いひ。罪あり。玉を
 抱て罪あり。おふ。宗旨の妙文句。そのふのふの。いとの。て。貪る。

ぶのりのふ。天道が大令。紙にけむ。あま。いひ。と。出さ。ば。

た。ば。う。れ。む。い。う。と。捨。て。取。ら。ば。己。と。繁。正。直。あ。り。て。め。り。の。ふ。

の。富。と。お。と。の。ふ。か。天。の。配。劑。貨。不。え。り。い。の。い。は。慾。有。あ。り。天。道。が。必
 ひ。ぬ。貨。と。授。け。る。に。慾。有。る。も。い。ぬ。り。の。不。孝。の。財。と。貪。る。る。玉。と。抱。は
 罪。あり。と。身。不。應。ぬ。早。に。死。す。め。し。この。結。が。腰。へ。あ。ま。り。は。一。生。と
 ず。ら。る。れ。ど。飲。ね。ば。茶。も。功。能。有。し。され。ば。富。も。貧。も。面。の。う。ら。ま
 あり。て。令。讓。の。う。あ。の。ふ。真。の。福。と。い。ふ。の。道。と。啖。て。か。と。ち。り。足。る。と
 と。あ。つ。て。そ。の。外。と。願。む。徳。と。脩。て。業。と。い。ふ。も。言。ひ。極。て。聖。教。せ。ん。妻
 子。和。合。し。て。不。孝。の。子。亦。有。し。親。戚。和。睦。し。て。不。孝。の。奴。僕。有。し。人。の
 言。ひ。稱。し。友。の。誤。と。告。る。と。は。人。間。の。富。貴。極。ま。る。この。友。よ。す。ら。の
 是。貴。人。と。い。ふ。人。の。言。ひ。稱。する。と。は。誘。言。か。ら。ば。友。の。誤。と。告。る

之ハ改カクス不便ヘイベンアリ。賓主ビンシュ相對ケイゴシテ夜話ヤワタシスル。官クワン之ハレ也。利リとレ儘ト
 之。米錢メイセンと同ト也。艶曲エンキョクと奏ソウセバ。人ヒトの短ミダカクレ責ツ責ツセ。己ココロが長ナガクレ説ツ説ツセ。學ガク
 亦ナラ國クニの爲ニ也。益エキあらんトと先マアリトク君キミくレ夜ヨてレふくるレ。學ガクがト久ヒサクレ也。
 とレハ惑マヨヒト也。少オホクレ君キミけレバ忘ワシルレ也。草野クサノありト也。未イだレ古コ實ジツを
 辨ワトシ。壯年ソウネンありト也。千古センコのレ失ヒ小チ通ツトシ。一夜イツヤの清セイ後ゴ。百世ヒャクセイの龜カメ鑑ケンとモ
 するトあらんト人間ニの飲イン樂ラク極キョク多シクレ。既スみレどモ志シ富トクて飲イン樂ラク彊キョウろクん
 小チハ執シツりト其ノ外ヲと求モトシん。陸リク梭ソ山サンが格カク言ゴン小チ貴キろク。聖セイ賢ケンするトも貴キれ
 小チハ。富トクハ道ミチ徳トクと畜チクふト。富トクろクんト。貧ヒンろクんト。道ミチと少オホくレるト。貴キれ
 貧ヒンろクんト。賤ケンろクんト。恥チとあらんト。賤ケンろクんト。とレり。わらば貧ヒン婪マンの
 人ヒト富トク貴キとモるト所トコロハ君子クニノシこれト貧ヒン賤ケンとモるト。貧ヒン婪マンの人ヒト貧ヒン婪マンとモるト所トコロハ
 君子クニノシとモるト富トク貴キとモるト世ヨ七シチ福フク神カミとモるト祭マツルるト也。福フク祿ロク壽シユ老ラウハ南
 極キョク星セイあり。布フ袋タイハ明メイ州シュウ奉ホウ化カ縣ケンの弱ジヤク法師ホフシとモるト。彌ミ勒ラクの化カ身シンと
 稱メイトシ。辨ベン財サイ天テンハ閻エ條ジョウの長チヤウ婦フ。吉キチ祥シヤウ天テン女ニョとモるト。一イツ俸ホウあり。吾ガ人ニ福フクと昆クニ沙
 門モン天テンハ水スイ徳トクの神カミ也。ハレ也。種タネと門モン天テンと稱メイとモるト。神カミの主ヌシ財サイ宝ホウハ三千
 世セ累ライあり。わらばれト也。只シカ吾ガ人ニこれトを授タテて貧ヒン婪マン不フ吾ガの人ヒトこれトを授タテけレ也。
 されバ吾ガ人ニ授タテけるレ也。財サイありト也。毎メイ日ジツ須ス弥ミ山サン三サンつツるト也。
 之レを積ツキて燒ヤキ捨シテるト也。とモるト。蓋カシ蓋カシ内ナイ傳デンの住ジウみツり。夷エイ大ダイ黑コクの鏡キョウハ一イツ定テイ
 ろラぬレ也。その福フク神カミとモるト所トコロ以ヨリハ。おのくレ異ヒありト也。べつちレ也。あらんト也。
 凡カ夫フハ福フクの福フクとモるト所トコロ以ヨリハ。必カナラずレ也。慾ヨクと心シンありト也。一イツ吾ガの行キヨウひレ也。も。
 其ノ神カミとモるト所トコロ以ヨリハ。佞ネイ媚メイろクんト也。令レ殘ゼンの福フクと祈イノるト也。
 之レを悉シツひト也。之ノ惑マヨひト也。宝ホウとモるト所トコロ以ヨリハ。令レ殘ゼンの福フクと祈イノるト也。子コるレ也。
 之レも。陰イン德トクと積ツキとモるト所トコロ以ヨリハ。孝コウ順ジュンの子コ宝ホウとモるト所トコロ以ヨリハ。亦ナラありト也。習ナリひ

古交神心集卷之五

三十五

学んたれハ情と整態と禁め悪をるるを我身の宝とある。今り
 生まて古とあるハ心の宝あり。師不徒て道とせむハ耳の宝あり。
 字と繕て経史と読ハ目の宝あり。身の臭と沢去りて煩悩の垢
 と去るハ鼻の貨あり。言と慎とて禍を脱るハ口の宝あり。書法と
 熟して四方の需不應むるハ手の宝あり。其病中て萬里と往來
 するハ足の宝あり。徳と備て疾の刻を送るハ子孫の宝とされハ
 福の業と勤るふあり。壽ハ身と有つふあり。これハことごとくの人と守
 る又正真の福の神なり。凡夫の信む。慾の神ありありハ舞と
 吠吠の中と生まて富四海とあり。孔子ハ宋魯の名家にて
 東西南北とる。その位とほるとは人力の及ぶ所あり。此
 ちれども富貴とあつて孔子まさりあるべし。悲の故貪婪の團
 人。此ハ神性を失て孤狸の妖言とて下士道を誅ハカクもつば笑ふ
 笑されバ。りて道とある小豆とバ。是こそハ神威のあらはなる所以
 況て汝が論むる所ハ是非相半せり。その身聖賢とありバ。聖
 賢の口とねと。又危うとむ。夜も深し。且くやとあり。と宣ひ
 て。蘇枋保の小横一ツを投与へ忽ちとて飛去るも人ハ夢想兵
 衛ハ忙然と。志むくそろのこを伏拜と。草を裯と小横とをりて
 とろくと目睡バ。その夜ハいつの明も。楠よ求食するの声あり。
 驚き覺て岸破と起きバ。かごとくと青とるを何ぞと見えバ。福の
 神の授多し。ハ小横とあり。ていぬ頃色慾困あり。己が失はれ
 紙老鷓あり。己よ至るまじく驚き。その彼福の神也。亦是神
 嶋仙人あり。賢ぶりて口利ると戒めてその紙老鷓小鷓あり。

嶋仙人あり。賢ぶりて口利ると戒めてその紙老鷓小鷓あり。

修行を勵しぬ人歎あり。苟も利を先小をとり死に奪がれば飽て夫利
羽をぬく。とこの中より。さうりと。糸もバ毒く。紙も鳥の木の葉の
入る。おのづから空中より。閃き。のりて。立地。雲の中。あを。入
ふけれ。

○摠評

慾ハ七情の主あり。苟も利を先小をとり死に奪がれば飽て夫利
と害との相鄰し。人その一分を安くせざるを困窮といふ。その一分を
安くするを富貴といふ。是るを死ある所の富貴と。志ふれば窮乏を
周公の才の美よりとも驕り且吝ス。君子ハこれを嫌。とい何ぞ美を
捨て利を取。易ふ云。乾元亨。利貞。といふ。利ハ。と訓。害ハ
と。る。と。訓。その利のよう。死を。これを。と。る。の。の。慾。人
ハ萬物の主として。その智万物小長より。上智ハ利を捨て害を退け。却
智ハ利を盡て相害と。貪富ハ天のものと。亦その道と。して。と。る。死ハ
利のつて。遂小害。鳥。鶴。燕。雀。の。死。ハ。寡慾。る。な。利。を。薄。し
て。分。を。守。り。の。の。彼。殺。百。の。鳥。叢。林。の。中。小。あり。朝。又。出。て。東。西。南
北。と。その。毎。日。小。求。食。と。る。必。方。あり。常。又。南。方。小。求。食。鳥。の。一
食。と。東。方。小。求。と。死。ハ。その。地。の。鳥。と。是。を。責。て。後。日。食。を。獲。と。る。と。
といふ。の。鳥。や。反。哺。の。孝。あり。久。く。大。人。君子。又。稱。せ。る。あ。ら。ん。ど。も。
その。智。の。是。と。る。が。な。く。善。を。行。て。善。を。と。る。降。け。と。ど。も。汚。れ。を
厭。ハ。と。或。ハ。小。鳥。を。追。ひ。蟬。を。捕。或。ハ。死。人。の。腸。を。食。ひ。牛。馬。の。糞
と。る。小。聚。ふ。毛。吾。行。あ。ま。と。も。異。類。を。傷。ひ。淨。け。と。ど。も。汚。れ。を
厭。ぶ。小。中。と。る。人。の。性。の。善。なる。も。一。舉。一。と。教。る。死。ハ。折。鳥。鶴。と

及ぶとあり。鳥へ分を安くと。母小孝あり。貪婪の人穢を厭で。
残忍の人忠孝とあり。亦彼燕雀の智ハ鳥鵲の下あり。一飛
半朝より。覆車の粟をぬく。その腹は満るとあり。ハ浩おして
亦外と未めど。その穂を啄とた。一トよび喙め。一トよび仰を左
小顧右ふりえり。利の乃ハ害を忘れ。人ハ動されバ利あり。
よつて害を忘る。う張りて燕雀小も及ばざるあり。人うけ情を
禁め。慾と割とを忘れ。道とやぶるの惑るる。後よりの樓閣成
て燕雀相笑と。さきと分をある。亦その亦とゆを相より。さり。
亦鵲ハ年の後。巢を造る。大乙小向して。大巢を背ふ。明年
大風あぶ。さ上飛あつて。その巢を低くと。彼その風信とある。大
ハ人の及ばざるあり。志くんども。その巢の低く。為小難を童子小
獲らざる。と志ふ。奸智の人又これ又似たり。伎倆技計。君子
とも欺くべし。あるども。その利の為小害ある。と志ふ。さし。
ゆてこれを祝ま。バ利と害とハおき。と遠く。富貴もその道
とゆ。ゆるん。小ハ。辞と。と負。其の命を志れ。とた。
恥る。小豆。只その分をある。とれハ安く。貪るとれハ危し。あり。
恭く。世の童子。ホよ。告。聖賢の言ハ。載て。経史。あり。あるども。
或ハ。これを。読。或ハ。読。その。と。解。る。小。至。し。
溜馬耳の東風。あり。ん。の。友。又。先哲。これと。和。解。して。固。守。小。字。し。亦
諒。解。して。その。義。と。明。と。今。よ。お。い。く。餘。師。の。書。又。之。り。ハ。更。よ
愚。が。言。と。符。と。と。の。信。言。受。る。り。なる。友。又。の。符。読。又。飽。て。卷。よ
蓋。と。る。り。の。も。あり。と。この。書。の。ど。れ。ハ。荒唐。あり。と。多。く。さ。る。る。れ。も。

却聖蹟とあげて途は鏡の罪とせよ。只我儘とれども。虚をさ
 ぶるの微意。他者の用をわづらふ己を責るふあり。且終むる所の
 四國の光景。ちかぬ色を滅め。中の鬨を滅め。後よびつと滅む
 童子ホららるるせよ。鏡で蓋ふといふも。小補するのあへん
 也。仏者よ誦念仏あり。亦唄頌目あり。且証鼓をりつておれと
 囉と。そのと戲譚は似れども。冥福を祈る功德は一なり。我
 儘ちかひしう出づ。彼豈然らんや。彼豈然らんや。

夢想兵衛胡蝶物語卷之五

